

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

## 中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-5	地域・都市構造に応じた機能階層型道路ネットワーク計画・評価手法についての技術研究開発	名古屋大学 教授 中村 英樹	B

## ＜研究の概要＞

地域・都市の各種拠点配置特性に応じて、求められる道路の階層数と目標旅行速度の組み合わせを明示し、機能階層型道路ネットワーク計画を立案する手法を提案するとともに、任意の道路ネットワークの機能階層化度の評価指標を開発することを目的とする。

## ＜中間評価結果＞

研究としては、計画通り進捗しているが、「地域・都市構造に応じた」検討が十分とはいえないことから、指摘事項に留意しながら現行の通り推進することが妥当であると評価する。実道路ネットワークへの展開と、実務へ適用に配慮しつつ研究を進めていただきたい。

## ＜今後の研究計画・方法への指摘事項＞

- ・昨年度のヒアリングでは、R2 年度には「地域・都市における拠点の種類・配置パターン」を考慮した分析を行う計画であったが、都市側の検討が実際にはほとんど行われておらず、道路ネットワーク分析に焦点が絞られているように見える。R3 年度はこの点を十分に検討いただきたい。
- ・バイパスなどの道路整備計画が進んでいる現場では、渋滞がなくなり便利になる、車が来なくなりまちが寂れる、といった漠然としたイメージがあるだけで、土地利用含め地域将来像と結びつけた議論が全くできていない。既存道路ネットワークの利用方法も含めて最適化していくことが重要であり、その予測が技術的にできることを広めていただきたい。
- ・仮想道路ネットワークでの検討が主であり、実ネットワーク（単数ではなく複数）での検討・提案・検証をしていただきたい。
- ・ケーススタディとして、実ネットワークを評価した際に、新設道路の階層性という概念についてわかりやすく説明できると共に、説得力のある結論が得られ、道路管理者が実務に利用しやすくなるよう考慮いただきながら、研究を推進していただきたい。